

桜丘のオオムラサキ館で3月17日午後18時00分から開催する、第93回のふれあいトークのご案内をします。昭和45年夏、栗山の「泣く木」が切られてから53年になります。今、この「泣く木」が絵本となり蘇ろうとしています。栗山の民話がまた新たな形で語り継がれます。昔語りに関心がある方、当時の事実をご存じの方など、どなたでも、お気軽にご参加下さい。

「自然と人がなかよく暮らしていくための栗山の自然・歴史・産業・生活文化講座」

耳よりな話と楽しい語らいのゆうべ「第93回ふれあいトーク」のご案内

演題 栗山の泣く木のはなしが

絵本「木霊(こだま)」になる

講師 永井 利幸さん 絵本作家 当麻町在住

日時 3月17日(金) 18時00分～20時30分

場所 栗山町ふるさといきものの里オオムラサキ館 桜丘2丁目38番地-5
(電話 0123-72-3000)

内容 講師の永井利幸さんはおよそ30年間、旭川市と当麻町で乳幼児・学齢児の親子に対して療育・子育て支援・相談の仕事の傍ら、絵本製作にかかわってきています。2017年3月に当麻町役場を早期退職し絵本作家として活動されています。

栗山町とは、1993年7月12日に起こった北海道南西沖地震による奥尻島の津波災害を経験し、地震災害の経験を語り継ぐ活動を全国で展開している栗山町在住の三浦 浩さん原作の「いのちのやくそく」という絵本の、絵と文を担当されているご縁があります。

この度の「泣く木絵本」作製にかかわり、永井さんは2020年に故人となられた「栗山・泣く木物語」著者坂井菊二郎さんから写真や資料の提供を受け制作に取り組んできました。この度の絵本は「木霊～北海道栗山町の泣く木のはなし」で、一昨年第7回絵本出版賞(スプリングインク主催)優秀賞に輝いた永井さんの作品を元にしたもの。4月出版を前にして、栗山町でお披露目をします。絵本を東京の出版社から出すには115万円ほどの自己資金と2000部以上発行する必要があります。私どもオオムラサキの会もこの春、全国出版となるこの絵本の応援をします。事前予約も大きな支援になります。栗山青年会議所創立25周年記念事業(昭和59年)として“泣く木2世”移植したハルニレは39年経ち、今も秘かにお世話しお参りして下さる方に守られて、静かに生長しています。



栗山・泣く木物語 口絵写真 昭和33年

ホットコーナー 軽食を準備します。 参加費 300円

主催 栗山オオムラサキの会 連絡先 電話090-9520-2715 高橋 慎